

商船三井が取り組む 船舶におけるクリーン代替燃料の導入

～グループ経営計画「Blue Action 2035 Phase2」が描く海運脱炭素～

— 講師 — 株式会社商船三井 エネルギー事業本部 燃料 GX 事業部
燃料トランジション戦略・事業チーム シニアリード 京田 繁樹 氏

日時 2026年6月26日(金) 午後3時～5時
受講方法 会場受講／ライブ配信／アーカイブ配信(2週間、何度でもご視聴可)
会場 紀尾井フォーラム 東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニガーデンコート1F

[重点講義内容]

商船三井が2023年に開始した「BLUE ACTION 2035」は、“2035年のありたい姿”であるグループビジョン実現を目指す13年間のグループ経営計画です。Phase 1(2023年度-2025年度)の3年間に続き、2026年度からはPhase 2(2026年度-2030年度)の5年間が始まりました。

2050年ネットゼロ・エミッション達成を目指し、2035年時点では輸送におけるGHG排出原単位を2019年比で45%削減する事を目標にしています。一方、海運業界や商船三井グループを取り巻く環境は近年目まぐるしく変化しており、IMO(国際海事機関)においてもGHG削減策「ネットゼロ・フレームワーク」の採択が先送りになるなど、先行きに不透明感が強まっています。

このような状況下で商船三井グループがどのような取り組みを進めていくか、代替燃料導入の観点から説明します。

1. 商船三井グループについて
2. グループ経営計画「Blue Action 2035 Phase2」について
3. 環境ビジョンについて
4. クリーン代替燃料の導入について
5. 具体的な取り組み事例の紹介
6. 今後の取り組みと課題
7. 質疑応答／名刺交換

※プログラムは最新動向を踏まえ変更する場合があります。

PROFILE 京田 繁樹(きょうだ しげき)氏

2007年 商船三井入社後、LNG船事業、自動車船事業、フェリー事業、船舶のDX推進、グループ会社の経営管理等に従事し、2023年4月からはグループ会社である商船三井テクノトレードに出向し、水素とバイオディーゼルを燃料とするハイブリッド旅客船の開発に携わる。2026年4月より現職。

